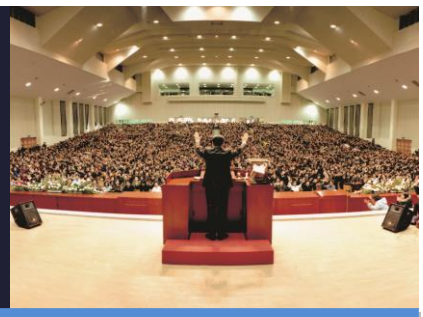
第 2018-24 号

恵みと真理のニュース



2018 年 6 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

主に自らをゆだねよ、主はあなたの心の願いをかなえてくださる

私は幼い時、外祖母と母が熱心に教会に通い主を仕える姿を見て育ちました。母は教会で区域長をして天国に召される前まで名誉勧士の職分で熱心に主と教会を仕えました。母は私たち１０人の兄弟が教会に通い、神様に礼拝を捧げる生活をするように助けて祈ってくださいました。昔、母の手を掴んで参席した夏の聖書学校で習った賛美歌の歌詞が今もはっきり覚えていてたまに、その頃の母を思い出して賛美を歌ったりします。母が区域礼拝を導くときは小学生だった私も共に座って礼拝をささげてまた、母を手伝って茶菓の用意をしたことが大事な思い出で残っています。
しかし、青少年になった以後、私は信仰生活をおろそかにして教会にはたまに母をついて行くぐらいの弱い信仰で生活しながら結婚しました。母は特に私の夫に関心と愛を見せました。婿の夢をよく見ると夫を伝道しました。私が二番目の子を妊娠して苦しんで、家で独りでいるのを怖がっていたので夫は私を実家に連れて行って退勤するときは実家に再び迎えに来てくれたりしました。そうしながら、夫も教会に通い始めました。母がとても喜びました。夫は金曜祈り会に母と一緒に教会に行きなさいとタクシー費までくれました。そんな夫がどんな理由があるか教会に行かなくなりました。そして、急に会社を辞めて事業をする友達の話だけを聞いてアクセサリー関連する事業を始めました。結局、事業があまりできなくて辞めました。でも幸いことは夫の友達が通う教会に通いながら再び神様に礼拝する生活を始めたのです。夫の友達はその後、牧師になりました。旦那は朝、夜まで教会に行って職業を与えてくださいと祈りました。神様の恵みで就職して熱心に信仰生活もしました。私が夫に教会の事を適当にして主日の午前礼拝だけ参席すると言うほど信仰生活に熱心を尽くしました。ソウルからシホン市に引っ越しした後、恵と真理教会の区域長に出会って恵みと真理教会に通うようになりました。当時はシホン聖殿が建てられなかったから、アンヤン聖殿に行って礼拝を捧げました。区域長の助けと聖霊に導かれて初めて教区バスを乗ってアンヤン聖殿まで行って礼拝を捧げましたが、その日の党会長の牧師の説教を聞いて今まで感じなかった感化と感動を受けました。説教と祝福してくださる牧師が一匹の失った羊を懐に抱いている姿に見えて私の心に入りました。そのように初めに行った日から大きい恵みを受けて熱心に礼拝中心の生活をしました。
信仰が成長をして聖霊で充満になり、区域長、首区域長の職分を任され熱心に教会を仕えて伝道をしました。シホンからアンヤンまで行って水曜礼拝をさ上げる時に行く道がスイン産業道路が混んで礼拝が終わってから到着したときありました。しかし、不平する心も出来なくてただ感謝しました。そのように聖徒達が熱心に礼拝して共に祈ったらシホンにも聖殿が建てられました。私たちの夫婦は共に聖歌隊で奉仕しました。子供たちも教会学校で楽しく教会生活をしました。
そうするうちに会社が不渡りすると夫は就職の変わりに事業するように決心してどんな事業をしようか神様の導きと御旨を求めながら祈りました。私も生活に助けになるため働こうとしたが夫は反対しました。難しくてももうちょっと我慢して主の事に専念しなさいとしました。私は神様に将来のことを委ねて主の事に専心全力しました。その時、当会長の牧師が来て祝福聖会の後、夫は神様の恵みと摂理で今までしたことと全く関係ないペイント代理店を開くようになり、代理店が徐々に定着され生活が安定されました。
その後、 通貨危機で触発された IMF事態が起こりました。１９９７年度、銀行で借りてアパートに入居した後だから政府が金融 構造調整と高金利政策を実施することによって元金と利子を返済していくことが大きく心配がなりました。私が心配して悩んでいるとき区域聖徒達が共に２１日間断食祈りもして毎日のように集まって祈ってくださいました。その祈りの最後の日に、夫が交通事故にあった話を聞きました。夫が職員と一緒に仕事をしにカンウォンドのソクチョにある現場に行く途中に中央線を越えた車と正面から衝突して重傷を負ってそこの病院に運ばれたいうことでした。夫の全身に大きいケガをして1次応急手術を受けてブチョンにある病院に移送されましたが、その病院の応急室で夫の状態が危険で受け入れようとしませんでした。教区牧師に今の状況を話したら心臓を専門にする大きい病院を教えていただいて、すぐその病院に入院して再手術を受けました。少し遅れたら夫の命が危なかった状況でした。多くの方々が病院に見舞いに来て涙を流しながら私を慰めてくださいました。私は神様を仰ぎ祈って落胆しなくて心が大胆で平安にすることができました。
感謝することは当会長の牧師と奥さんが見舞いに来られ夫の健康の回復のため祈ってくださって私を慰めて下さり、力を与えてくださいました。牧師が祈ってくださる時、私は夫がすぐ健康が回復して病床から起きることを疑わなく信じました。本当に牧師が祈ってくださって、私が信じったとおりに夫が命が助かって健康を回復しました。ハレルヤ！このことがあった後、夫は信仰が強くなり、主の前で謙遜と従順の姿勢で主を仕えるようになりました。その後、夫は長老の職分を受けて、聖歌局長の職分を受けて聖歌局長として教会と聖歌隊員達を仕えています。
私たちが神様を畏れて熱心に教会と聖徒達を仕え奉仕する生活をすると神様は私の家庭で多くの福を与えてくださいました。新しい家を与えてくださいました。（株）恵真建設という信仰の商号を使う新しい事業場の扉も開いてくださいました。そして、子供たちが結婚して信仰生活をよくするように恵みと愛を与えてくださいました。長女の夫婦も聖歌隊で共に奉仕しています。神様は姉と兄も救ってくださって我が教会で神様が予備した福ある人生を生きるようにしてくださいました。しばらく前、今回の証を書こうと思って祈って準備する中でうれしくて感謝する話を聞きました。二番目の夫婦が子供が出来なくて長い間、祈って党会長の牧師も祈ってくださいました。そんな二番目の娘が妊娠したと良い話を聞きました。自然妊娠でした。ハレルヤ！まだ、妊娠初期ですが神様が娘とおなかにいる孫が健康で無事に出産までするように守ってくださるのを信じます。私は神様の恵みでここブチョン聖殿で女性奉仕連合会の会長の職分で9年間担当して勧士の副会長で聖米部長で献身して主日は年老いの聖徒達のため運転奉仕もしています。この運転奉仕は以前から考えていて祈っていた事で実践するようになってうれしい限りです。私の願いは、婚家の6人兄弟と実家の10人兄弟のすべての家族と親戚がすべてイエス様を信じて仕えることです。
神の恵みによって今日の私があるのです。（コリント信徒への手紙15：10）とした使徒パウロの告白が今日、私の口から自然にでる告白であり、感謝の賛美になるようにしてくださる恵みと愛に感謝ささげすべての栄光を捧げます。

［信仰コラム］

風波の原因把握と適切な対応策

＂舟で 海にくだり，　大海で 商賣をする 者は，主のみわざを 見，　また 深い 所でそのくすしきみわざを 見た．．．＂
（詩篇 107：23～31）

私達がこの世を生きる間に経験する風波が全て有害なことだけではありません。その風波の性格と原因を分別して、これを正しく対処して行けば、災いを転じて福となし有益な結果を叶えます。聖書に記録された話しから聖徒達が経験する様々な種類の風波に対してそして、その原因と適切な対応策について調べてみましょう。
第一は、神様が任された事を拒否したり、忌避する人が経験する風波があります。
予言者ヨナがニネベに行って悔い改めを促せるという神様の指示に逆らってタルシシュに行く船に乗って逃亡する中に大風に遇い船が破船の危機に直面しました。船員達がヨナを海に投げると直ちに風波が静まり、ヨナは大きい魚に飲み込まれました。ヨナが魚の腹中で三日間を昼も夜も悔い改めて、感謝と信仰の告白と賛美を捧げると神様が魚に命じられヨナを陸地に吐き出しました。ヨナはとうとう任務を誠実に行いました。
聖徒達には礼拝と伝道、奉仕という共通の任務があります。このような任務と特権を疎かにして任務遂行を拒否すると神様がこのような聖徒を返らせるために風波に遇うようなさいます。このような時には徹底に悔い改めて聖徒の本分と死命に忠実すべきです。
第二は、主の御言葉通りに行う中で起きる風波があります。
イエス様が五つのパンと二匹の魚奇跡を施された後に、弟子達のみ先に船に乗ってガリラヤ海を渡らせました。日が暮れて暗くなったが、急に激しい風波が押し寄せて弟子達の心に恐れが臨みました。その時、イエス様が海の上を歩き弟子達に来られて幽霊だと叫ぶ弟子達に向いて＂しっかりしなさい．　わたしだ．　恐れることはない。＂と言われました。ペテロが海の上を歩き始めたが、途中に風波を見て恐れてしまい水の中に入り込むと手を伸ばし、彼を掴んで共に船に乗られると風がやみました。このような風波は弟子達の信仰を鍛練するための風波でした。主の御言葉通りに生きていく中に予想しなかった風波のような問題と苦境に処される時、状況や自分の感じより主の御言葉を固く握って前進する信仰を堅持する訓練の機会として扱うべきです。
第三は、サタンの妨げによる風波があります。
弟子達がイエス様と共に船に乗ってガリラヤ湖水を渡る途中に激しい風が吹きまくり、波がこぼれ入り船が沈没直前に置かれました。弟子達は寝られるイエス様に＂先生，　わたしどもがおぼれ 死んでも，　おかまいにならないのですか＂と叫びました。イエス様が起きて弟子達に＂なぜ，　そんなにこわがるのか．　どうして 信仰がないのか＂と言われた後、風と海に向いて＂靜まれ，　默れ＂と責められたら直ちに風がやみ海が静まりました。このような風波は主を信じて仕えることを妨げようと荒れるサタンの介入で起きる風波です。この時は信仰のない人のように行うのではなく、主の助けを求める一方、風波に向いて＂靜まれ，　默れ＂と命令すべきです。
第四は、キリスト人の誠な姿を人々に表わせる風波があります。
使徒パウロが裁判を受けるためにローマに行く中、船が島の南端に位置した美港に停泊した時、大多数の人々は上側のピニクス港口に行って冬を過ごすことを願ったが、聖霊の教えを受けたパウロはこれを引きとめました。罪囚を護送する百人隊長がパウロの言葉より船長と船主の言葉信じて出港を許しました。間もなくユ ― ラクロン という 暴風に遇って船が地中海を漂流しながら全ての人々が恐怖と絶望で震える日が続きました。その時パウロが＂ 元氣を出しなさい。舟が失われるだけで、あなたがたの中で生命を 失うものは，ひとりもいないであろう、わたしに 告げられたとおりに 成って 行くと，　わたしは，　神かけて信じている．われわれは，　どこかの 島に 打ちあげられるに 相違ない＂と叫びました。パウロの予告通りに到着した島でパウロに神癒の恵みが現れて酋長の父親と病んだ人々が来ていや割れました。島を離れるまで三ヶ月間が島で復興聖会の期間になりました。パウロが経験したこのような風波は神様の光栄を表わしてキリスト人の実状を表わせる役割をしました。聖徒としての本分を尽くしながら生きる中で風波が起きると、神様の光栄を表わして聖徒の誠な姿を表わせる契機に扱うべきです。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

聖徒を助けて慰める聖霊様

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

聖霊様の対した知識と経験は、信仰生活に非常に重要です。私たちは、聖霊様の対した知識と経験がより豊かになることを熱望しなければなりません。この世を責める聖霊様、イエス様を信じて受け入れる者を新しく生まれる聖霊様、聖徒を教えて導かれる聖霊と福音を述べ伝える聖霊様について去った四週間にわたって調べてみました。今日は聖徒を助けて慰める聖霊様について説明します

第一に、聖霊様は私たちの活動と判断を助けてくださいます。

イエスは聖霊様を指して「他の助け主」と呼ばれました。助け主はある人のそばで励まして大事にしてくれる方を意味します。イエスが弟子たちと一緒におられるとき、弟子たちに「助け主」でした。しかし、イエスはあがない働きを果たした後、天に上げられたその後、他の助け主である聖霊様が来られました。そして、弟子たちは、彼らがイエスと同行していたのように助け主、聖霊に頼って友情を交わして、大きな喜びと大胆に活動しました。その事実をよく示す記録が使徒行伝にあります。
エルサレム初代教会のピリポ執事がサマリヤの町に行って福音を伝えました。多くの人がピリポが伝える言葉を聞いて奇跡を見てみよう、イエス・キリストを受け入れて洗礼を受けました。エルサレムでは、この知らせを聞いた使徒たちがペテロとヨハネを派遣して、彼らは聖霊を受けるために安手祈られたので、すべてが聖霊を受けました。そしてサマリアは復興の炎が燃え上がりました。ところが、主の使い　すなわち聖霊がピリポにエルサレムからカサに下り荒野へ行くと指示されました
ピリポがこれに従って、行くと戦車が見えました。エチオピアの女王カンダケのすべての国庫を引き受けた宦官が乗って行く戦車でした。彼は礼拝を差し上げる　ためエルサレムに来て、帰り道でした。ピリポが聖霊の指示に基づいて戦車に乗りましたら 宦官がピリポを請じて戦車に乗って座るようにしました。彼の求めによってピリポが聖書を詳しく解け説明し、福音を伝えると宦官が、イエス・キリストを受け入れました。その次に何が起こったが、聖書にこう書いています。 **「そこで 車をとめさせ， ピリポ と 宦官と， ふたりとも， 水の 中に 降りて 行き， ピリポ が 宦官に バプテスマを 授けた． ふたりが 水から 上がると， 主の 霊が ピリポ をさらって 行ったので， 宦官はもう 彼を 見ることができなかった． 宦官はよろこびながら 旅をつづけた． その 後， ピリポ は アゾト に 姿をあらわして， 町をめぐり 歩き， いたるところで 福音を 宣べ傳えて， ついに カイザリヤ に 着いた 」（使徒行傳 8：38~40）**
この言葉で「主の使い」「聖霊」「主の霊」という 3 つの表現は、すべて聖霊を指しています。ピリポが聖霊様の指示と導きを受けて活動している場面を示しています。

初代教会の信者たちは、このように、聖霊様の深く依存し、密接な友情を持ちました。もう一つの場面をみましょう。エルサレムの迫害が発生すると、聖徒たちがいろいろの地方に散らばっていきました
この時、異邦地域であるアンテオケにも教会が設立されました。使徒たちがバナバをアンテオケ教会に派遣して牧会にしました。教会が日増しに復興したので、バナバがパウロを連れて来て一緒に働きました。アンテオケ教会の指導者たちが集まって断食する時に聖霊が指示されるのを「私が呼んでさせることのためにバナバとサウロを別に立てよ」としました。そして二人が、聖霊の遣わして宣教旅行を出発しました。このように、初代教会の信徒たちは、常に聖霊様を助け主であると認識して、聖霊様の指導と助けを求めて、これに従った

第二に、聖霊様は私たちの弱さを助けてくださいます。

ローマ人への手紙 8 章 26 節に「御霊もまた 同じように， 弱いわたしを 助けて 下さる． なぜなら， わたしたちはどう 祈ったらよいかわからないが， 御霊みずから， 言葉にあらわせない 切なるうめきをもって， わたしたちのためにとりなして下さるからである 」
としました。聖霊様の助けを受けるために備えるべき要件があります。まず、自分が弱い存在であることをまことに認識する必要があります。次に、聖霊が私たちの弱さを助けてくださることを知らなければなりません。そして聖霊の助けを頼りにして求めてください
このことについてペテロの経験は良い教訓になります。イエスの最後の晩餐を分けた後、弟子たちに**「今夜， あなたがたは 皆わたしにつまずくであろう 」**と予告されました。**「 ペテロ は イエス に 答えて 言った， 「たとい， みんなの 者があなたにつまずいても， わたしは 決してつまずきません 」**としました。**イエスがペテロに向かって、「よくあなたに 言っておく． 今夜， 鶏が 鳴く 前に， あなたは 三度わたしを 知らないというだろう」**としました。ペテロはこれを強く否定しました。イエスの予告どおり、イエスが祭司長たちや長老たちが送った群れによって捕らえられ行かれました。弟子たちは、すべて逃げました。ペテロは遠くに追いつくました。大祭司の家の庭に入って、イエスが厳しく受ける光景を目撃しました。ペテロは恐怖に包まれました。その女の僕が、彼をイエスと一緒にいた人だとしました。ペテロはすぐに否定しました。すると、他のしもべも彼はイエスと一緒にいた人だとしました。ペテロは誓い、否定しました。ペテロの声を聞いてそばに立っていた人々が「本当にあなたはそれらに属する者だ。あなたの声を聞いてみると明らかである」しました。すると、ペテロが呪われして誓いながら「私はその人を知らないである。」しました。その瞬間鶏が泣く声が聞こえました。ペテロは、「今夜、鶏鳴く前に、あなたは三度わたしを否認するだろう」と言われたイエスの言葉を覚えました。外に出て激しく泣きました
しかし、ペンテコステの日に聖霊の満たしを受けたペテロは、すべてのことに聖霊様の助けを頼りました。そしてどんな脅威と迫害にもめげなくなりました。今、自分の決意と意志だけで行なう者ではなかった。聖霊様の助けによって行なう者になりました。それから彼は、エルサレムの宗教指導者たちの前に連れて行かれ出ても堂々と論争して、イエスを伝播しました。結局、栄光な殉教者になるまでしました
使徒パウロもある時は、自分の知恵と経験を信じて自信満々に行動したが、いつからか自分を依頼していた態度を完全に捨ててしまいました。このようになされた理由を二つに見ることができます。彼がアジアで大きな患難を経験した事と　もう一つの肉体のとげの問題のためでした。それによって使徒パウロは、**「わたしの 力は弱いところに** 完全**にあらわれる」**とは、逆説的な言葉をするようになったのです。自分の弱さを知っている限り、聖霊様の助けを頼りになる人は弱さが恥ずかしくなく、むしろ誇ることになります
「御霊もまた 同じように， 弱いわたしを 助けて 下さる． なぜなら， わたしたちはどう 祈ったらよいかわからないが， 御霊みずから， 言葉にあらわせない 切なるうめきをもって， わたしたちのためにとりなして 下さるからである そして， 人の 心を 探り 知るかたは， 御霊の 思うところがなんであるかを 知っておられる． なぜなら， 御霊は， 聖徒のために， 神の 御旨にかなうとりなしをして 下さるからである」（ローマ人への手紙 8：26,27）
しました。聖徒は誰も祈りの重要性と必要性についてよく知っています。しかし、何をどのように祈るのかについては、すべて分かるのができません。聖霊は全知ですので、私たちの都合や事情を私たち自身よりもよくご存じです。何をどのように求めるのが、父なる神の御心にふさわしいかをすべてご存じです
だから聖霊は、父なる神の御心にふさわしく、私たちのために祈ってくださいます。聖霊様が言うことができない嘆きに、私たちのために自ら求めたとしました。聖霊様は、私たちの心を介して神にも表現できないほどの嘆きの形式で求めておられます。したがって、聖霊が私たちの祈りを助けてくださるよう切に頼って求めてをください

第三に、聖霊は私たちを慰めて下さいます。

聖霊様は慰め主です。患難と迫害と悲しみを受けた聖徒を慰めてくださいます。ペンテコステの日 120 人は恐れ震えながら屋根裏の部屋に集まりました。それらを捕られしようとする群れがいたからです。しかし、聖霊の満たしを受けた後は主の慰めで大胆になりました。彼らはエルサレム街を闊歩しながら力強く福音を伝えました。聖霊に満たされたステパノ執事は主の慰めが心にあふれて自分を殺そうと石を投げ打つ者たちのために赦しと愛の祈りをしながら殉教しました
パウロとシラスはフィリピで福音を伝えて告発されて役人の前に連れて行かれました。枚をたくさん打たれて後に刑務所の深いところに閉じ込められました。湿気臭いところ閉じ込められ足かせにつまずいて、痛みを伴う不快感しお腹はすごくすきました。夜が深まるいく聖霊様のを慰めは、パウロとシラスの心の中にいっぱいになりました。するとパウロとシラスは喜んで賛美を歌い始めました。他の囚人たちが十分に聞こえる声を出して歌った。患難の中にある者が聖霊様の慰めを受けて患難の中にいる他の者を慰めることになるのは、聖徒たちから見ることができる特徴です。

聖徒の皆さんは、聖霊が助け主で来られておられることを意識して、聖霊様にすべてのことに助けと慰めを積極的に求めてください。そして、聖霊の助けと慰める恵みを豊かに体験してをください.